

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災 <u>維持管理</u> 環境 コスト ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）																							
技術名称	真空吸着型圧力調整注入工法	担当部署	コンクリート補修事業部																					
NETIS登録番号	TH-110002-A	担当者	佐々木栄洋																					
社名等	株式会社栄組	電話番号	0198-65-3032																					
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 コンクリート構造物の長寿命化対策の中においてひび割れ補修技術は、ひび割れ補修のニーズが高まっていることも相まって注目されており、ひび割れ箇所へ補修材料を流し込み、ひび割れを閉塞させる注入工法が補修施工に採用されることが多いといえます。しかしながら、施工環境や施工条件によっては、ひび割れへの注入が困難となることもあり、さらには注入不足や接着不良等の施工不良による再劣化が生じている事例も少なくありません。このような背景のもと、これらの課題を解決し、長寿命化に貢献する技術を開発してコンクリート構造物の長寿命化に貢献することこそが弊社の歩む道と位置づけ、技術と経験を結集し、ひび割れ注入技術として確立したのが「圧力調整注入工法（真空吸着型圧力調整注入工法、ノズル型圧力調整注入工法）」です。 2. 技術の内容 真空吸着機能を有する注入機を用いてひび割れ表面からコンクリート補修材を注入するひび割れ補修工法です。この工法は、注入性能・適応能力・経済効率に優れた画期的なコンクリートひび割れ注入技術です。この技術は、接着養生が不要な注入技術であり、低圧から高圧まで注入圧力を調整できる、補修材（無機・有機）を選ばない、複数の材料を連続して注入できる等の特長があります。さらに、従来技術と比較し優れているのは、ひび割れの深部から表面部までの確に注入することが可能であることと、注入機を繰り返し使用するため廃棄物が発生せず、環境負荷が低いことです。 3. 技術の効果 ・注入プラグを使用しないことにより経済性が改善されているため、補修にかかる費用を抑えることができます。 ・注入プラグの接着時に使用する接着剤が不要のため、コンクリート躯体を汚すことはありません。 ・注入状況を確認しながら低圧から高圧まで注入圧力を調整して注入することにより、ひび割れの深部までの確に注入することが可能です。 ・一度の注入作業で複数の補修材を注入することができる（コンクリート改質剤を注入しコンクリート強化を行うことも可能）。 4. 技術の適用範囲 ①適用可能な範囲 土木、建築コンクリート構造物全般のひび割れ箇所 ②特に効果の高い適用範囲 ひび割れ幅が0.2mm以下の箇所 ひび割れから漏水が発生している箇所 コンクリート構造物のひび割れ箇所に補修跡を残したくない場合の補修 5. 活用実績 <table border="0"> <tr> <td>国の機関</td> <td>8 件</td> <td>（九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>8件</td> <td>）</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>73 件</td> <td>（九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>73件</td> <td>）</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>38 件</td> <td>（九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>38件</td> <td>）</td> </tr> </table>			国の機関	8 件	（九州	0件	、九州以外	8件	）	自治体	73 件	（九州	0件	、九州以外	73件	）	民間	38 件	（九州	0件	、九州以外	38件	）
国の機関	8 件	（九州	0件	、九州以外	8件	）																		
自治体	73 件	（九州	0件	、九州以外	73件	）																		
民間	38 件	（九州	0件	、九州以外	38件	）																		

6. 写真・図・表

